

大学院看護学研究科看護学専攻	
学籍番号	DN1202
氏 名	北川 良子
学位の種類	博士（看護学）
学位授与年月 日	2016 年 3 月 22 日
学位授与の要件	学位規程第 4 条第 2 項該当
論文題目	助産師の職業生活の変化の様相と職業生活の変化に影響する要因
主指導教員	成田 伸 教授
副指導教員	中村 美鈴 教授
	春山 早苗 教授
論文審査委員	主査： 教授 永井 優子
	副査： 教授 春山 早苗
	副査： 教授 本田 芳香

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、助産師の職業生活の変化の様相と職業生活の変化に影響する要因を明らかにすることによって助産師のキャリア支援のための示唆を得ることを目的とした質的記述的研究である。対象は助産師資格取得後 10 年以上経過し、離職経験が 1 回以上ある 30～40 歳代の助産師を 2 つの都道府県助産師会を通じて募集し、同意を得られた 9 名である。

年齢、分娩介助件数、助産師基礎教育機関の種類、助産師資格取得後の職歴の概略等 6 項目からなる調査用紙と職業生活が変化したときの状況や理由に関するインタビューガイドに基づいた各 1 回の半構成的面接によってデータを収集した。

看護職のキャリア開発研究(平井、2009)を参考に、助産師の職業生活の内容、場所、就業状況のいずれかの変化を 1 回の職業生活の変化とし、各事例の職業生活の変化について経年的にデータを整理した総体を職業生活の変化の様相と定義した。全事例の様相を俯瞰して共通性を見出して分類し、そのグループの特徴をもって命名した。

また、各事例の逐語録から職業生活の変化に影響した文脈を取り出し、意味内容を明確に要約して「コード」として全事例の「コード」を集約し、内容の類似性に基づいて抽象度を高めてカテゴリー化し、自己、家族、職場や周辺の 3 要因に分類した。

本研究の結果、助産師の職業生活の変化の様相は、全事例が病院で分娩を含む周産期ケアから職業生活を始めており、その後①地域で分娩を含む周産期ケアと育児支援に移行する、②他の場所に移動した後に病院・診療所において分娩を含む周産期ケアに戻る、③地域における育児支援中心の助産ケアに移行する、という3グループに分類された。また、職業生活の変化に影響する要因のカテゴリーとして、『自己要因』には【助産実践から得るやりがいの実感】等8個、『家族要因』には【子育てや家事の増大】等5個、『周辺要因』には【助産師同士のつながり】等10個が生成された。

助産師のキャリア支援として、就業初期にこれらのケア領域の体験をもつ助産師との交流を促す支援、および助産師のケアには分娩を含む周産期領域と地域における育児支援という2領域があることを助産師基礎教育で強調することの重要性が示唆された。

2016年1月6日(水)の論文審査において、少子化問題とマンパワー不足にある周産期医療の深刻な現状における助産師のキャリア形成支援の視点から長期間の職業生活の様相の特徴を見出した独創性を認められて合格となった。一方、用語の定義、分析の理論的枠組みと手順の明確化、データの本質を損なわない結果の表記等、論旨の一貫性に留意し、考察を深める必要性が指摘された。同年2月15日(月)の最終審査において、指摘事項について一部修正されたプレゼンテーションがあり、助産師の基礎教育および就業早期のキャリア支援とその体制構築へ寄与する実践的かつ社会的意義があり、広域実践看護学分野の目的に適合していることから、合格となった。一方、研究目的と結果との一貫性を保つために論文題目の変更と考察のさらなる深化が求められ、同年2月29日(月)に最終提出論文で修正事項を確認して、審査委員全員が合格と判断した。

(1307 文字)